

偉大な「ローテク」の恩恵を感じつつ乗る

「知の道具」としての自転車

老親の介護のために東京から名古屋郊外に帰郷して十年。

それから乗り始めた自転車は、意外な行動半径の広がりをもたらした。

日常の用足しに、折々の遠出に、使い続ける自転車の役割や恩恵と、

それに乗る「智者の楽しみ」を呉さんが語る――。

図書館通いで日に二十キロ

――ある新聞に七万円のクロスバイクに乗っておられるという記事が出てましたが、自転車は東京でも乗っていたんですか？

いや、東京では乗ってません。もっぱら歩くだけだね。四十歳ちょっと前から糖尿病になって、医者にも

勧められたので、東京にいるころは

ひたすら歩いていました。一日二十

キロぐらいは平気で歩いたね。しか

し十年前に名古屋に帰ってからは、

もちろん歩いてもいるけど、名古屋

は道が広いし、歩くより自転車のほ

うが遠くまで行けるし、私は自動車

の運転もしないからね。名古屋に帰

るとすぐ乗り始めたんです。

――呉さんのイメージからは、失礼

ながらスポーツタイプの自転車で飛

ばすんじゃないくて、ゆっくり優雅に

哲学的にママチャリかなと思いまし

たが(笑)。

うん、最初はママチャリというか、

まあもうちょっと良い三段切り替え

の自転車を買ったんですよ。そのう

ち走る距離が延びてきたので、二万

円ぐらいの安いマウンテンバイクを

買った。ところがマウンテンバイク

評論家・思想家

呉智英

●くれ・ともふさ 1946年愛知県生まれ。早大法学部卒業。無前提で信じられる民主主義や人権概念の恣意性に対する根源的批判で知られる。著書に『バカにつける薬』『サル正義』『危険な思想家』『犬儒派だもの』『ロゴスの名はロゴス』『現代人の論語』など。

は前傾姿勢で手にかかるとでしよ。だから嫌々乗ってただけけど、これはタイヤの減りが早くてね、二年ぐらいしたらもうツルツルのボウズになつた。そのうちほかの部分もガタが来たので、買い換えたのがいまのクロスバイクなんです。まあ考えてみれば二万円の自転車に二年乗って、一年で二万円、一日にしたら二十七円だったから、こんな安い娯楽はないし、七万円ぐらいならと思つてね。そのクロスバイクに換えてからは七年ぐらいかな。

——クロスバイクも前傾姿勢になりませんが、辛くはないですか。

いや、あれは私の体にちょうどいいぐらいの前傾姿勢なんです。店でいろいろと見せてもらつて決めたからね。

——ふだんはどんな使い方を？

いま住んでいるところが実家から

一キロぐらい離れているんですよ。父は亡くなりましたが、その前から母が風呂場で動けなくなつたとか連絡があると、すぐに飛んで行かないといけない。いまでも、頼んでいるヘルパーさんから電話があつて、ちよつと来てくれとかなると自転車で行きます。タクシーを呼ぶよりも早いし、便利だからね。

それから、私にとっては、やつぱり図書館ですね。いつも使う図書館が二、三カ所、距離も方向も違ふところがあるので、自転車通います。だからメインはそれで、図書館や本屋を二、三往復するだけで一日に十五から二十キロぐらいは走つちゃう。これ、大学（東京理科大など）の授業で東京に行く日を除けば毎日だから、だいたい一カ月に二十日走るとして三百キロから四百キロ、一年で四千里、十年たてば地球一周した距離

になる（笑）。

——ほかに遠出するときは？

ちよつと走つてみて、名古屋の街の横断、縦断はちよるいというのがわかつたからね。どこへ行くにも、そこが二十キロ圏内ならもう楽勝で行けますね。前にマウンテンバイクを買つたとき、関ヶ原の近くまで農道みたいな道をたどつて行つたことがある。最初は不安だつたけど、やつてみたら何でもなくて、往復で七十キロぐらいは全然平気だった。いまは少し体力も落ちたけど、それでも片道二十キロ、すぐく行きたいところがあれば往復で五十キロぐらいなら行きますね。

——けつこう走つておられますね。

あのね、じつは走行距離が延びてきた当初は、これで東京に通えるんじゃないかなと思つたんだ。たとえば大学の授業が金曜日にあるとして、